

占冠村農耕地土壤図(1/5万)

(地力保全基本調査、上川南部地域)

1995年3月

北海道上川支庁
北海道立上川農業試験場

本土壤調査報告書は、昭和48年9月に北海道立中央農業試験場化学部土壤改良科第1係が調査した資料をもとに、農林省北海道農業試験場土壤調査報告書第29編を参考に平成7年度に北海道立上川農業試験場が地力保全基本調査の様式に則って編集し、上川支庁とともに発行した。

(北海道立上川農業試験場 土壤肥料科)

目 次

I. 土壌統および土壌区一覧 1

II. 土壌統の説明 3

(水田利用の土壌統)

1. 占 冠 統 (SI)	3
2. 双 珠 別 統 (SO)	5
3. 中 央 西 統 (CN)	7
4. 中 央 東 統 (CH)	9
5. 占 冠 西 統 (NI)	11
6. ニ ニ ウ 統 (N)	13
7. 山 上 統 (Y)	15
8. ト マ ム 南 統 (TM)	17
9. 中 ト マ ム 統 (NT)	19
10. 中 央 統 (C)	21
11. 八 戸 統 (HA)	23
12. ト マ ム 統 (TO)	25
13. ト マ ム 西 統 (TN)	27
14. 双 珠 別 東 統 (SE)	29
15. 下 ト マ ム 統 (ST)	31
16. 上 ト マ ム 統 (KA)	33
17. ト マ ム 北 統 (KI)	35

III. 土壌の理化学性(代表地点、参考地点) 37

I. 土壤統および土壤区一覧

(1) 土 壤 統 一 覧

統番号	地図上 の記号	土壤統名	色層序	腐植層序	簡略分級式	礫層・砂礫 層を混在 する砂層	酸化 沈積物	土 性	
								表層	次層
1	SI	占 冠	Y/Y	表層腐植層 なし	IItpia	あり (60cm以下)	なし	粘質	粘質
2	SO	双 珠 別	YR/YR	表層腐植層 なし	IIdgl	あり (35cm以下)	なし	粘質	粘質
3	CN	中 央 西	Y/Y	表層腐植層 なし	IIIallti	なし	あり	壤質	粘質
4	CH	中 央 東	YR/YR	表層多腐植層	IIIffIItnse	なし	なし	壤質	壤質
5	NI	占 冠 西	YR/YR	表層腐植層	IIIfnIItise	なし	なし	壤質	壤質
6	N	ニ ニ ウ	YR/YR	表層腐植層	Ihw	なし	なし	壤質	壤質
7	Y	山 上	YR/Y	表層腐植層	IIIddIItg(w) fnase	あり (60cm以下)	なし	壤質	壤質
8	TM	ト マ ム 南	YR/YR	表層腐植層	IIIffIItnse	あり (70cm以下)	なし	壤質	壤質
9	NT	中トマム	YR/YR	表層腐植層	IIIdgIItfnise	あり	あり	粘質	壤質
10	C	中 央	Y/Y	表層腐植層 なし	IItdfna	あり (85cm以下)	なし	粘質	壤質
11	HA	八 戸	YR/YR	表層腐植層	IIIlnIItdgfse	あり (60cm以下)	なし	粘質	壤質
12	TO	ト マ ム	YR/Y	表層腐植層 なし	IIIaIIdf	あり (75cm以下)	なし	壤質	壤質
13	TN	ト マ ム 西	YR/YR	表層腐植層 なし	IIId(w)nIItgfia	あり (28cm以下)	なし	壤質	礫質
14	SE	双珠別東	YR/YR	表層腐植層	IIIlnIItdgfa	あり (55cm以下)	なし	壤質	壤質
15	ST	下トマム	YR/YR	表層腐植層	IIItdiIIg(w) fnse	あり (38cm以下)	なし	壤質	壤質
16	KA	上トマム	YR/Y	表層腐植層	IItwfn	なし	あり	粘質	壤質
17	KI	ト マ ム 北	YR	—	IIItdwfIIna	—	—	粘質	—

泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母材	土壤型 (第2次案)	
				土壤統群	全国土壤統
なし	なし	水積(扇状)	非固結水成岩	細粒褐色低地土	新戸 12A02
なし	なし	水積(扇状)	非固結水成岩	礫質褐色低地土	外城 12C07
なし	なし	水積	非固結水成岩	中粗粒灰色低地上	加茂 13B07
なし	なし	風積	非固結火成岩	表層腐植質黒ボク土	鯉渕 03C14
なし	なし	風積	非固結火成岩	表層腐植質黒ボク土	米神 03D27
なし	なし	風積 水積	非固結火成岩 非固結水成岩	表層腐植質黒ボク土	大里 03D38
なし	なし	風積 水積(扇状)	非固結火成岩 非固結水成岩	表層腐植質黒ボク土	船川 03D39
なし	なし	風積 崩積	非固結火成岩 変成岩	細粒褐色森林土	長坂 06A09
なし	なし	風積 崩積	非固結火成岩 変成岩	礫質褐色森林土	泉南 06C20
なし	なし	水積	非固結水成岩	細粒褐色低地土	新戸 12A02
なし	なし	水積(扇状)	変成岩	細粒褐色低地上	新戸 12A02
なし	なし	水積	非固結水成岩	中粗粒褐色低地土	芝 12B03
なし	なし	水積	非固結水成岩	礫質褐色低地土	二条 12C06
なし	なし	水積	非固結火成岩 一次堆積	礫質褐色低地土	二条 12C06
なし	なし	水積(扇状)	非固結水成岩	礫質褐色低地土	外城 12C07
なし	75cm以下	風積 水積	非固結火成岩 非固結水成岩	中粗粒灰色低地土	安来 13E17
全層	全層	集積	ヨシ・ハンノキ	泥炭土	長富 16 01

II. 土壤統の説明

1. 占冠統

A-1 土壤統の特徴

本統は水田利用の土壤統として設定した。各河川の流域に分布する細粒質の褐色低地土であるが、伏流水の影響で弱い雲状の斑紋を有することがある。透水性は比較的良好である。礫は存在しない。代表地点では地表下30cmに湧水位がみられた。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.10 水田）平岡孝一宅地先

SI 10	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
12	灰褐 2.5Y5/3	SC	大粒	18	中	雲状	中	大	細粒褐色低地土 12A02
25	灰色 7.5Y6/1	CL	無構造	20	中	雲状	中	中	
	灰褐 2.5Y5/3	CL	大塊弱	22	中	な し	湿	中	湧水位30cm



A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法 土性	真比重	容積重 g/100ml 風乾土 現地
			粗砂	細砂	シルト	粘土			
1	0~12	3.2	11.0	45.6	17.8	25.6	SL		
2	12~20	3.0	11.0	44.6	26.3	18.1	CL		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				1.13	0.12	9.1	2.0	5.7	4.3	4.1	702
2				0.92	0.10	8.9	1.5	5.9	4.8	1.5	845

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	16.1	181	146	12	87	10.8	0.65	
2	16.6	198	192	9	101	6.2	0.77	

A - 4 他の土壤統との関係

占冠村には本統と同じ土壤型である褐色低地土の統は多くあるが、砂礫層が浅く出現したり、母材の違いで区分している。

中央統は本統とほとんど同じであるが畑地利用として区分した。

A - 5 母 材：非固結水成岩

A - 6 堆積様式：水積(扇状堆積)

A - 7 地 形：谷底平野

B - 1 簡 略 分 級 式

土壤 生産 能力 可能 性等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 上 土 の 含 量	耕 耘 上 土 の 含 量	湛 水 上 土 の 含 量	酸 作 上 土 の 含 量	化 下 土 の 含 量	遊 離 下 土 の 含 量	自 然 下 土 の 含 量	保 湿 下 土 の 含 量	保 肥 下 土 の 含 量	養 分 下 土 の 含 量	固 定 下 土 の 含 量	置 換 下 土 の 含 量	有 效 土 分 下 土 の 含 量	微 酸 土 分 下 土 の 含 量	災 害 物 理 的 障 害 性	地 滑 り の 危 険 度	增 冠 水 の 危 険 度
	t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a							
稻	II	II	I	I	II	2	2	1	I	1	1	I	1	1	1	1	1	1
烟	III	III	III	II	II	2	2	1				I	2	1	1	I	1	1
稻	II	t	p	i	a	転換畑	III	t	II	d	g	p	w	f	n	i	a	

B - 2 利用状況：水田、転換畑

B - 3 農業上の留意事項

湧水位の高いところは伏流水を遮断する暗渠が必要である。

表層の腐植が少ないので有機物の施用につとめること。

C 調査年月日： 昭和48年9月 調査者： 北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ： 平成7年3月 北海道立上川農業試験場 木村清

2. 双 珠 別 統

A-1 土壌統の特徴

本統は下トマムの水田分布地区の礫質褐色低地土をとりまとめた。大部分は扇状地堆積から成る。25~30cm以下に砂岩、頁岩を母材とする礫層が出現する。透水性は良好で斑紋は認められない。

A - 2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.24 水田 転換畑）伊藤七宅地先

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	3相分布(%)			全炭素(%)	全窒素(%)	C/N	腐植(%)	pH		置換酸度	リン酸吸収係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				3.57	0.35	10.3	6.2	5.7	4.5	9.5	1432
2				2.18	0.22	9.9	3.8	6.1	4.6	1.6	1362

層位	塩基交換容 量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100 g)		遊離 酸化鐵 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	13.5	252	52	15		88	20.0		0.57	
2	18.0	278	58	23		74	4.7		0.69	

A-4 他の土壤統との関係

本統と同じ礫質褐色低地上がある統は、トマム西統、双珠別東統、下トマム統がある。下トマム統とはほとんど同一であるが水田利用と畑利用の違いで区分している。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積樣式：水積（扇狀堆土）

A-7 地形：河成沖積、大部分は扇状地

B - 1 簡 略 分 級 式

B-2 利用状況：水田、転換畠

B - 3 農業上の留意事項

礫層の出現が浅いが、踏圧を受けたところは意外に透水性がわるい。そのようなところは穿孔処理による排水が有効である。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

3. 中央西統

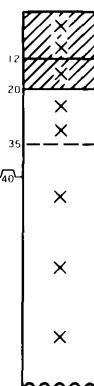
A-1 土壤の特徴

本統は各河川及び支流の沖積面に沿って分布する灰色低地土である。地下は高く、特に沢で水があつまるところではグライ化している場合がある。土性は粘質で全層に斑紋が認められる扇状地堆積の土壤である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.56 水田）

CN 56	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考	
	灰色 2.5Y5/2	SL	小 粒	12	小	糸 根	中	中	中粗粒灰色低地土 13B07	
	灰色 2.5Y4/2	LiC	無構造	18	小	糸 根	中	中~小		
	灰色 2.5Y6/1	LiC	大 塊	20	中	膜 管	湿	中	湧水40cm	
	灰色 7.5Y6/1	LiC	無構造	22	大	雲 状	潤	小		



The diagram shows a vertical column of soil layers. At the top, it is labeled 'CN 56'. The first layer (0-12 cm) is shaded with diagonal lines and has 'X' marks at the top. The second layer (12-20 cm) has 'X' marks at the top and bottom. The third layer (20-35 cm) has 'X' marks at the top and bottom. The fourth layer (35-40 cm) has 'X' marks at the top and bottom. The fifth layer (40-45 cm) has 'X' marks at the top and bottom.

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g /100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~12	4.3	35.6	34.0	16.8	13.7	SL			
2	12~20	4.4	32.7	21.1	18.9	27.2	LiC			
3	20~35	6.6	34.2	20.7	16.5	28.6	LiC			

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	氣 相					H ₂ O	KCl		
1				3.30	0.30	10.9	5.7	5.9	5.4	5.3	1066
2				3.96	0.36	11.1	6.9	5.9	5.5	3.0	1339
3								6.1	5.8	1.0	2161

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%) 石灰 塩基	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	18.0	182	46	12	86	40.8	0.60	
2	19.1	196	40	10	85	16.7	0.64	
3	26.1	250	40	16	77	3.2	1.52	

A-4 他の土壤統との関係

本統と同じ灰色低地土グループに上トマム統があるが、本統が現河沖積面に近く、災害性が大きいので区分している。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積(扇状堆積)

A-7 地形：扇状地

B-1 簡略分級式

土壌 生産 力 可能 性等 級	表土の厚さ の深さ 等級	耕作性 の難易性	湛水性 の風乾性	酸化性 の粘着性	土の透水性 の堅さ	自作性 の最高性	土壤 の元性	微生物 の活性	自然 の還元性	保水性 の遊離酸	固肥 の分解酸	肥料 のイソラ	養分 の豊富度	土層の 置換性 の豊富度	障害 の微酸 量	災害 の有害物質 の有無	地滑り の危険度	冠水の危険度
稻	II	H	I	I	I	I	I	I	I	2	2	I	2	3	1	I	2	2
畑	III	III	I	I	I	I	I	I	I	2	2	2	II	2	2	1	II	1
稻	III	a	H	t	i	転換畑	III	t	a	II	w	f	n	i		1	2	1

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

地下水位が高いので、山地との境には承水路が必要である。

C 調査年月日：昭和48年9月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽弥
D 取りまとめ：平成7年3月 北海道立上川農業試験場 木村 清

4. 中央東統

A-1 土壤統の特徴

本統は扇状地の上に火山放出物が堆積している。上部は樽前山起源の火山砂が、下層は恵庭ローム層と思われる古期放出物層からなる表層腐植質黒ボク土である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.12 牧草地）安田進吾宅地先

CH 12	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
15	黒色 7.5YR2/1	L	小 粒	18	小	な し	中	大	表層腐植質黒ボク土03C14(灰/ローム)
30	黒色 7.5YR2/2	L	大 粒	21	中	な し	中	大	
42	黒色 7.5YR2/1	L	小 小 粒 塊	19	中	な し	中	中	
60	黄褐 10YR6/6	L	小 塊	19	やや大	な し	中	中	ローム
	黄褐 10YR5/8	L	大 塊	20	大	な し	中	中	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~15	9.5	34.7	27.1	28.9	9.3	L		
2	15~30	10.4	13.1	49.2	28.5	9.2	L		
3	30~42	10.9	11.0	42.2	40.7	6.1	L		
4	42~	7.6	8.9	52.1	29.5	9.5	L		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸 度	リン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H ₂ O	KCl		
1				5.97	0.53	11.3	10.3	5.9	4.9	1.0	2276
2				6.36	0.54	11.9	11.0	5.4	4.7	2.1	2656
3				7.17	0.58	12.3	12.5	5.3	4.6	2.8	2738
4				2.86	0.24	12.0	5.0	5.3	4.7	1.9	2337

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100 g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	32.5	365	42	5		40		4.4		
2	42.7	137	24	9		10		5.6		
3	50.2	280	212	12		20		4.5		
4	7.2	30	174	11		15				

A-4 他の土壤統との関係

火山灰起源を母材としている統に、占冠西統、ニニウ統がある。

占冠西とは、ほとんど類似の土壤統である。

A-5 母材：非固結火成岩(火山灰)

A-6 堆積様式：風稜

A-7 地形：沖積面からみて高い位置にある緩斜面上

B-1 簡略分級式

上表有表耕土効土生産力可能等級	上表土の層礫の厚さ	自耘地の上土の含水量	養透保濕然肥難の粘風乾水水潤沃肥定	養置換層の性質の粘風乾水水潤沃肥定	障微酸有量有效態害物質の性質	災物理的害物質の性質	傾増冠水害程度	侵地滑りの危險度	侵自然の危險度	侵人
t d g p	w	f	n	i	a	s	e			
畑 III II I I I 1 1 2 I 1 1 1 III 1 4 3 II 1 1 3 2 1 2 I 1 1 I 1 1 II 2 II 2 1 1										
畑 III f II t n s e										

B-2 利用状況：畑、牧草地

B-3 農業上の留意事項

母材が火山灰であるため耕耘は容易である。リン酸固定力が極めて強いのでリン酸資材の多施用が有効である。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村清

5. 占冠西統

A-1 土壤統の特徴

本統は、樽前山からの火山灰と恵庭岳または支笏起源の火山灰が丘陵斜面に堆積した火山性の土壤である。下層には蛇紋岩母材の褐色森林土がある。粘着性は弱い。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.4）

Ni 4	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
16	黒色 10YR2/1	L	小粒	12	小	な	し	中	表層腐植質黒ボク土 03D27
36	黄褐 10YR5/6	SL	細塊	20	小	な	し	中	Ta-a火山灰
58	黄褐 10YR4/4	L	大塊弱	17	中	な	し	中～大	古期火山灰ローム
70	黄褐 10YR5/6	L	大塊弱	19	中	な	し	中	
	黄褐 10YR5/8	L	大塊弱	21	中	な	し	中	90cm以下は 頁岩・砂岩の礫層

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法 土性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 増地
			粗砂	細砂	シルト	粘土			
1	0~16	10.8	37.5	20.3	31.8	10.4	L		
2	16~36	15.0	26.1	44.2	25.7	4.0	SL		
3	36~58	12.8	12.9	45.5	31.5	10.1	L		
4	58~70	9.3	12.4	48.2	35.1	4.3	L		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				5.78	0.55	10.5	10.0	5.0	4.3	5.9	1861
2				4.45	0.42	10.5	7.6	5.3	4.8	1.3	2423
3				4.65	0.39	11.9	8.0	5.3	4.7	1.9	2730
4							—	5.3	4.7	2.0	2471

層位	塩基交換容量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100 g)		遊離酸化鉄(%)	有効態珪酸(mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイク	トルオグ法		
1	23.7	62	177	9		10		5.6		
2	20.9	87	67	13		15		tr		
3	29.4	59	557	21		7		tr		
4	24.9	56	tr	16		8		tr		

A - 4 他の土壤統との関係

本統の火山灰起源の土層には厚さ50cm以上ある。類似の統に中央東統がある。

A-5 母材：樽前火山灰／古期火山灰／礫層

A - 6 堆積樣式：風積

A-7 地形：標高230~240m、傾斜2~8°の波状性段丘

B - 1 簡略分級式

	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕
	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜	傾 斜
土壤 生産 力可 能性等 級	土壌 上の厚さ	耕 耘 有効土層の深さ	表 土 上 の 礫 含 量	土 地 の (表 土 の 風 乾 土 の 堅 さ)	自 然 透 保 水 性 (表 土 の 粘 着 性)	湿 潤 肥 沃 性 (表 土 の 土 性)	養 分 (土 層 の 鹽 基 狀 態)	微 量 有 效 態 リ ン 酸 カリ 苦 土	量 要 素 度 (酸 害 性 度)	度 (微 量 有 效 態 リ ン 酸 カリ 苦 土 置 換 性 石 灰 含 量)	度 (酸 害 性 度)	度 (酸 害 性 度)
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	
畑	III	H	I	I	I	1	1	2	I	1	2	I
畑	III	f	n	H	t	i	s	e				

B - 2 利用状況：烟

B - 3 農業上の留意事項

耕耘は容易であるが、下層のリン酸固定力が極めて高いので、リン酸資材の施用は不可欠である。傾斜の急なところでは土壤流亡に注意する。

C 調査年月日：昭和48年9月
D 取りまとめ：平成7年3月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽弥
北海道立上川農業試験場 木村 清

6. ニニウ統

A-1 土壤統の特徴

本統は、現河川沖積面および河岸段丘上に主として樽前山b火山灰が再堆積した土壤である。土性は粗粒である。火山灰起源であるがリン酸固定力の小さい土壤である。下層は沖積土壤である。表層は黒色を呈する。調査時の湧水位は42cmであった。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.51 番）伊藤敏男宅地先

N 51	土 色	土 性	構 造	ち密 度	粘 着 性	斑 紋	湿 り	透 水 性	備 考
17	黒色 10YR2/1	SL	小 粒	10	小	な し	中	大	表層腐植質黒ボク土 03D38
32	黒色 10YR2/2	SL	大 塊	16	小	な し	中	大	Ta-bの移動再堆積
45	黄褐 2.5Y6/4	S	单 粒	10	な し	な し	中	大	Ta-b火山灰 湧水42cm
60	黄褐 10YR4/3	SL	单 粒		な し	な し	中	大	
	黄褐 10YR5/4	SL	单 粒		な し	な し		大	沖積土壤

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~16	4.7	52.2	19.6	22.1	6.0	SL		
2	17~32	5.6	55.6	19.7	13.7	11.0	SL		

層位	3相分布(%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H ₂ O	KCl		
1				5.29	0.45	11.7	9.1	6.0	5.6	2.5	1280
2				5.30	0.49	10.9	9.2	6.0	5.6	3.3	1356

層位	塩基交換容量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100 g)		遊離酸化鉄(%)	有効態珪酸(mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	21.0	171	8	12		29		3.1		
2	15.2	154	22	10		36		4.2		

A-4 他の土壤統との関係

類似の火山性土壤として、中央東統、占冠西統があるが、これら2統はリン酸固定力の本統よりはるかに強い。

A-5 母材：樽前 b 火山灰／非固結水成岩

A - 6 堆積樣式：風積／水積（河成沖積）

A-7 地形：標高260～300mの河岸段丘上に発達した扇状地形

B-1 簡略分級式

B - 2 利用状況：畑

B-3 農業上の留意事項

土性が粗粒で耕耘は容易である。扇状地形上のため一部のところでは伏流水のため湿害を受ける恐れがある。養肥分の流亡が激しい土壤であるため有機物管理が重要である。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

7. 山上統

A-1 土壤統の特徴

本統は、扇状堆土の上に火山性土壤が堆積した土壤統である。下層の扇状堆土はホルンフェルスを主材とした中粗粒の土壤である。上部の火山性土は腐植含量が高く、リン酸固定力が強い。排水性は良好である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.37 牧草地）

Y 37	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
13	黄褐 7.5YR3/3	L	大粒	20	小	なし	中	大	表層腐植質黒土 03D39
23	黄褐 10YR4/4	CL	小塊	21	中	なし	中	大	
40	黄褐 2.5Y6/6	L	小塊	20	小	なし	中	大	
60	黄褐 2.5Y7/6	L	小塊	16	小	なし	中	中	
	角礫層	S&G	小塊		小	なし	中	中	硬砂岩、緑色変岩の礫

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法 土性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗砂	細砂	シルト	粘土			
1	0~13	10.0	22.3	29.3	43.0	5.4	L		
2	13~23	14.6	22.2	31.2	31.2	15.4	CL		
3	23~40	7.4	15.2	46.9	23.1	14.8	L		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				7.03	0.41	17.1	12.2	5.7	5.0	1.3	2289
2				7.34	0.39	19.0	12.6	5.4	4.6	2.9	2834
3							—	5.2	4.6	2.9	2570

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%) 石灰 塩基	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	27.1	390	26	44	51	8.9		
2	37.1	131	30	48	13	tr		
3	18.0	48	6	11	10	5.4		

A - 4 他の土壤統との関係

火山性土に区分される土壤統は中央東統、占冠西統があるが、前者2統は火山灰層が厚いことで本統と異なる。

A - 5 母材：非固結火成岩(火山灰)

A - 6 堆積様式：風積／水積(扇状堆上)

A - 7 地形：傾斜3～8°の扇状緩斜面

B - 1 簡略分級式

上表有表耕上自養障災傾侵	地滑りの自然為水風
壤生上土の層の土の肥の性の鹽基の豐基否含素度	增冠水の危險度
效上耘土の土の肥の性の鹽基の豐基否含素度	害物質の有無性
上保濕然固上分置換有效態有微酸	物理的害性
透然固上分置換有效態有微酸	地滑りの危險度
t d g p w f n i a s e	i a s e

畑 III II III II I 2 1 2 (II) 1 2 2 II 1 4 2 II 1 1 1 2 2 2 III 2 3 II 1 2 II 2 II 2 2 1
 畑 III d i II t g(w)f n a s e

B - 2 利用状況：畑、牧草地

B - 3 農業上の留意事項

排水状態は良好である。リン酸固定力が強いのでリン酸資材の施用につとめること。干ばつの恐れがある。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

8. トマム南統

A-1 土壤統の特徴

本統は、細粒の褐色森林土の上に薄い火山灰層が堆積した火山灰表層褐色森林土である。下層は花コウ閃緑岩を母材とする崩積土である。本統は主として狩振岳斜面に分布する。下層には花崗岩の半角礫、円礫の中、大、巨礫を含む。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.27 牧草地）

TM 27	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
	黄褐 10YR3/4	CL	大 粒	16	小	な	し	中	大 細粒褐色森林土 06A09 Ta-a火山灰
	黄褐 10YR6/4	SL	小 塊	21	小	な	し	中	大 石英粒含む
	黄褐 10YR5/6	SL	大 塊	17	中	な	し	中	大
	黄褐 10YR6/4	L	大 塊	15	小	な	し	中～湿	中 風化岩花崗岩礫層
	黄褐 10YR5/8	L	2 .		小	な	し	中	大

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~15	8.1	32.6	30.8	20.4	16.2	CL		
2	15~30	8.5	28.1	37.7	26.5	7.6	SL		
3	30~58	6.1	26.3	46.9	26.4	0.3	SL		
4	58~70	4.2	30.5	33.2	26.2	10.1	L		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	氣 相					H ₂ O	KCl		
1				5.18	0.35	14.9	8.9	6.2	5.2	1.1	2132
2				4.47	0.32	14.1	7.8	5.8	4.7	1.6	2208
3							—	6.0	4.9	1.0	2024
4							—	6.0	4.6	2.1	1608

層位	塩基交換容量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100 g)		遊離酸化鉄(%)	有効態珪酸(mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	18.9	275	18	8		52		3.3		
2	19.5	48	116	4		9		tr		
3	17.8	36	46	2		7		tr		
4	13.9	36	202	3		9				

A - 4 他の土壤統との関係

褐色森林土に分布される統には中トマム統があるが、表層に礫があるので本統と異なる。

A-5 母材：非固結火成岩(火山灰)／固結火成岩

A - 6 堆積樣式：風積／崩積土

A-7 地形：標高580～800mの山麓緩斜面

B-1 簡略分級式

B - 2 利用状况：烟、牧草地

B - 3 農業上の留意事項

排水性は良好である。有効態リン酸に欠けるのでリン酸資材の施用が必要である。表層では塩基バランスがくずれている。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

9. 中トマム統

A-1 土壤統の特徴

本統は、表層に樽前山aとc火山灰、下層に緑色片岩、頁岩の角及び半角礫の中、大、巨礫に富む。透水性は良好である。最下層には雲状斑紋がみとめられる。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.43 牧草地）村営牧場

NT 43	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
△△ □□ △△ □□ ××	黄褐 10YR3/3	CL	大 粒	22	小	な し	中	大	礫質褐色森林土 06C20 Ta-a, C層
△△ □□ △△ □□ ××	黄褐 10YR4/4	L	小 塊	20	小	な し	中	大	变成岩母材 硬砂岩
△△ □□ ××	黄褐 10YR5/4	L	小 塊	18	中	な し	中	大	φ5~15cm
△△ □□ ××	黄褐 10YR7/2	L	大 塊	20	大	雲状含む	中	中	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~18	7.5	28.2	24.1	27.5	20.2	CL			
2	18~38	7.1	22.2	33.3	32.2	11.9	L			
3	38~55	5.7	16.4	51.2	30.1	2.3	SL			

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H ₂ O	KCl		
1				5.80	0.42	13.8	10.1	5.4	4.7	2.0	2357
2				4.92	0.37	13.4	8.5	5.6	5.0	1.3	2130
3				—	—	—	—	5.4	4.9	1.3	2078

層位	塩基交換容量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100 g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	21.0	129	12	21		22		tr		
2	19.7	126	16	18		23		tr		
3	17.7	48	6	7		10		tr		

A - 4 他の土壤統との関係

本統とほぼ同一の断面を示すのが山上統である。しかし、本統の下層の水分状態はより湿性である。

A-5 母材：非固結火成岩／固結片成岩

A - 6 堆積樣式：風積／崩積

A-7 地形：標高560～700m、傾斜3～10°の山麓斜面

B-1 簡略分級式

B - 2 利用狀況：牧草地

B-3 農業上の留意事項

傾斜地にあり、表層が火山灰起源であるため土壤流失のおそれがある。リン酸固定力が強いのでリン酸資材の施用に努めること。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

10. 中央統

A-1 土壤統の特徴

本統は占冠中央の河川沖積面に分布する。水田、畑の利用である。頁岩を主材としてこれに蛇紋岩風化物が混ざる河成沖積土である。排水性は良好で褐色低地土である。下層に礫層が出現することがある。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.17 畑）佐藤安之助宅地先

C 17	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
70	黄褐 2.5Y5/3	CL	小粒	12	中	なし	中	大	細粒褐色低地上 12A02
48	黄褐 2.5Y5/3	L	小塊	15	小	なし	中	大	
48	黄褐 2.5Y4/4	CL	小塊	15	中	なし	湿	中	
85	砂礫層	S&G	単粒						φ5~15cm 頁岩

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法 士性	真比重	容積重g/100ml 風乾土 場地
			粗砂	細砂	シルト	粘土			
1	0~20	2.9	17.6	37.7	27.9	16.8	CL		
2	20~48	3.6	4.4	51.3	32.5	11.8	L		
3	48~85	3.2	10.6	41.1	32.3	16.0	CL		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C:N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				1.63	0.15	10.5	2.8	5.6	4.6	1.1	824
2				1.09	0.11	9.5	1.9	5.6	4.5	1.4	850
3				—	—	—	—	5.9	5.0	0.6	1033

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離 酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	16.6	294	56	23	63	8.2		
2	19.0	356	34	16	67	4.1		
3	18.4	443	56	9	86	3.1		

A-4 他の土壤統との関係

本統とほぼ同じ土壤型になる統として八戸統があるが、下層が扇状堆土となることで本統と異なる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積河成沖積

A-7 地形：河川の沖積低地面

B-1 簡略分級式

上表有耕土	自然養分	障害	災傾	侵
土壤上土の厚さ	保湿度の強度	有機酸素量	物理的害性	自傾人耐
上土の礫礫の難易度	保固性	効率量	害物質の性	斜為風
土の粘土の含水量	肥沃度	カリ含有量	障害性	の傾蝕
土の含水量	水潤度	土基腐根	無害性	の傾蝕
土の含水量	度	含酸素量	度	斜向度
土の堅度	力	素度	度	性
t d g p	w f n	i a s		e
畑 H H H I I 2 2 1 1 2 1 H 2 2 1 H 1 1 1 2 1 2 I 1 1 H 2 1 I 1 I 1 I 1 1 1				
畑 H t d f n a				

B-2 利用状況：水田、畑

B-3 農業上の留意事項

水田としての土壤条件は良好であるが、有機物含量に欠乏するので有機物の施用が求められる。畑利用の場合は、リン酸資材の施用に努めること。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

11. 八戸統

A-1 土壤統の特徴

本統は上トマムの山裾の扇状緩斜面に分布する褐色低地土である。表層には樽前
a 火山灰が混じり、深い腐植層を有する塊状構造の発達する膨軟な土壤である。下
層には頁岩、珪岩の巨大礫及び細小礫を含む。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.33 牧草地）工藤宅地先

HA 33	土 色	土 性	構 造	ち 密 度	粘 着 性	斑 紋	湿 り	透 水 性	備 考
18	黄褐 10YR4/3	CL	小 粒	18	小	な し	中	大	細粒褐色低地土 12A02
38	黄褐 10YR4/6	CL	小 塊	17	小	な し	中	大	
60	黄褐 10YR5/8	L	小 塊	17	中	な し	中	中	
	角礫層	S&G	小 塊	19	—	な し	中	大	
頁岩、珪岩の巨礫、中・細小礫層									

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~18	5.7	25.0	30.1	27.6	17.4	CL		
2	18~38	7.4	12.4	45.6	23.8	18.2	CL		
3	38~60	5.3	11.2	52.0	33.5	3.3	L		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸 度	リン酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H ₂ O	KCl		
1				4.94	0.36	13.7	8.6	5.0	4.5	4.4	1866
2				3.69	0.27	13.7	6.4	5.3	4.8	1.6	2484
3				—	—	—	—	5.6	4.6	2.6	1837

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%) 石灰 塩基	有効態リン酸(mg/100g) ブレイ2 ツルオグ法	遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	11.3	57	19	6	18	4.2		
2	8.4	53	12	4	23	tr		
3	16.5	59	4	5	13	tr		

A-4 他の土壤統との関係

本統に類似する統として中央統があるが、中央統は全層が河成沖積であることから本統と若干異なる。

A-5 母材：变成岩

A-6 堆積様式：水積(扇状堆積)

A-7 地形：標高540～600m、傾斜3～10°の扇状緩斜面

B-1 簡略分級式

上表有表耕土 壤土生産の力可 能性等級	下表有表耕土 土の厚さ の深さ 含水量 量等級	自然肥 土の風 乾度 易着 上性 性	養分 地の水 透水性 保水性 の難易 粘度 度	障害物 置換の性 能の強さ の程度 度	災害物 の量 害物質 の量 害性	傾斜度 度	侵蝕度 度
t d g p	w	f	n	i	a	s	e
畑	III H H H I 2 1 1 I 1 2 1 H 2 3 3 III 2 2 3 2 1 3 I 1 1 I 1 1 II 2						H 2 2 1
畑	III n H t d g f s e						

B-2 利用状況：畑、草地

B-3 農業上の留意事項

表層に火山灰が混ざることから耕耘は容易であるが土壤流亡に留意した等高線栽培、牧草帶の設置が望ましい。リン酸固定力が比較的強いのでりん酸資材の施用につとめること。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村清

12. ト マ ム 統

A-1 土壤統の特徴

本統は下トマムの鶴川沿いの最新冲積面に在る中粗粒の褐色低地土である。頁岩を母材とした冲積土であり、塊状構造がよく発達して膨軟である。下層には1~5cmの円礫層が出現する。土層全体の透水性は良好である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.41 番）吉田福太郎宅地先

TO 41	土 色	土 性	構 造	ち 密 度	粘 着 性	斑 紋	湿り	透 水 性	備 考
28	黄褐 10YR4/3	L	小 粒	15	小	な し	中	大	中粗粒褐色低地 上 12B03
48	黄褐 2.5Y5/3	CL	小 塊 中	15	小~中	な し	中	大	
75	黄褐 2.5Y5/4	L	小 塊	18	小	な し	中	大	
	砂礫層	S&G	黑色頁岩の砂礫層						

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 売地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~28	3.4	21.2	27.8	41.6	9.4	L		
2	28~48	4.3	15.2	34.2	33.5	17.0	CL		
3	48~75	4.0	18.8	35.8	35.5	10.0	L		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	氣 相					H ₂ O	KCl		
1				3.66	0.29	12.6	6.3	5.6	5.0	0.6	1159
2				2.79	0.55	5.0	4.8	5.5	4.8	1.5	2090
3				—	—	—	—	5.4	4.8	1.4	1500

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%) 石灰 塩基	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	13.2	247	12	17	66	11.4		
2	15.7	112	12	22	25	tr		
3	8.1	50	8	4	22	tr		

A - 4 他の土壤統との関係

本統に類似する統として中央統(12A02)、八戸統(12A02)があるが土性は細粒質であるが、堆積様式が扇状堆積であり、本統と若干異なる。

A - 5 母材：非固結水成岩

A - 6 堆積様式：水積(河成沖積)

A - 7 地形：河川沿いの最新沖積面

B - 1 簡略分級式

上表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤土上土	松表表地透保濕然保固	上分置	有微酸	有物增	地滑り	自傾人	侵耐耐
生産の層	の土土土的肥	層の性	效態量	害物冠水	然為	斜為	水風
力の厚	礫難風乾水水潤沃肥定	の性	害質	害物的	のの	の傾	蝕
可能さ	深含粘風乾水水潤沃肥定	基豐基苦カリ	要性	害物質	危險性	方傾	蝕
性等級	量易上着土着土	度基否	性有性	害性	危險度	向斜	度性性
	性性度	力力態	無性	度			
	t d g p	w f n	i a s	e			
畑	III I II I I 1 1 1 I 1 2 1 II 2 2 3 I 1 2 1 1 1 2 I 1 1 III 3 1 I 1				I 1 1 1		
畑	III a II d f						

B - 2 利用状況：水田、畑

B - 3 農業上の留意事項

排水状態は良好である。塩基のうち特に苦土が不足する。第2層はリン酸固定力が強いので深耕の場合はリン酸資材の施用に努めること。また、増冠水の危険性があり、地域全体を考慮した河川改修が望まれる。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村清

13. トマム西統

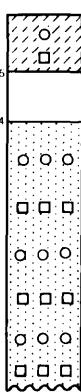
A-1 土壌統の特徴

本統は下トマムの鶴川沿いに分布する礫質の褐色低地土である。土性は細粒質で深さ30~60cm内に砂岩、頁岩の砂礫層が出現する。塊状構造がよく発達している。有効土層は浅い。

A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.44 牧草地）村営草地

TN 44	土 色	土 性	構 造	ち 密 度	粘 着 性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
15 石	黄褐 10YR4/3	LiC	小 单 粒	18	小	な し	中	大	礫質褐色低地土 12C06
44	黄褐 5Y5/3	LiC	单 粒	15	無	な し	中~湿	大	
S&G 珪岩、硬砂岩、頁岩、変成岩の砂礫層									



A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	2.4	1.3	35.1	34.0	29.6	LiC			
2	15~28	1.7	28.1	16.7	18.2	37.0	LiC			

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H ₂ O	KCl		
1				2.11	0.17	12.1	3.7	5.3	4.5	2.5	779
2				0.81	0.07	11.4	1.4	6.2	5.7	1.3	936
3											

A-4 他の土壤統との関係

本統と同じ礫質褐色低地上の統として双珠別東統、下トマム統があるが表層の腐植含量が高いこと、礫層の出現位置がやや深いことで本統と異なる。

A-5 母材：非固結水成岩

A - 6 堆積樣式：水積

A-7 地形：最新河成冲積面

B-1 簡略分級式

	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
侵 蝕	地 滑 り の 危 険 度	自 然 傾 斜 の 方 向	自 然 傾 斜	侵 蝕	風 蝕	水 蝕	耐 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕	侵 蝕
傾 斜	增 冠 水 の 危 険 度	物 理 的 的 害 性	有 害 物 質 の 有 無	害 性	障 害	養 育 分 の 肥 沃 度	微 酸	有 效 量	保 持 力	固 定 度	土 地 透 水 度
表 土 の 厚 さ	耕 耘 の 難 易	表 土 の 礫 含 量	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 堅 さ	自然 肥 沃 度	肥 沃 度	表 土 の 乾 湿	有 效 磷 酸	表 土 の 鹽 基 性	表 土 の 鹽 基 性	土 地 保 水 性
土壤 生产力 可能性 等級	有 效 土 層 の 深 さ	耕 耘 表 土 の 厚度	耕 耘 表 土 の 礫 含量	耕 耘 表 土 の 粘 着 性	耕 耘 表 土 の 堅 さ	耕 耘 表 土 の 鹽 基 性	耕 耘 表 土 の 堅 さ	耕 耘 表 土 の 鹽 基 性	耕 耘 表 土 の 堅 さ	耕 耘 表 土 の 鹽 基 性	耕 耘 表 土 の 鹽 基 性

B-2 利用状況：畑、水田

B - 3 農業上の留意事項

有効土層が浅いので深根性作物の栽培には適さない。塩基に著しく欠乏しているので土壤改良材の施用が不可欠である。有効態リン酸にも欠乏している。礫層が浅いので干ばつ害の恐れがある。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場　高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

14. 双珠別東統

A-1 土壤統の特徴

本統は腐植層が深い礫質褐色低地土である。段丘上及びそれに続く緩斜面（扇状地）に分布する。礫層の出現位置は変化する。表層には樽前a火山灰を混じる。中間部にローム質であるが風化のため強粘質な土層を持つ。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.20 番）高桑照夫宅地先 12C06

SE 20	土 色	土 性	構 造	ち 密 度	粘 着 性	斑 紋	湿 り	透 水 性	備 考
20	黄褐 10YR3/3	SL	小 粒	15	小	な	し	中	礫質褐色低地土 12C06 Ta-a灰 混
37	灰褐 10YR3/2	SL	小 塊 中	15	中	な	し	中	大
55	黄褐 10YR5/6	L	大 塊	19	大	な	し	中～ 湿	ローム様、強粘 質
	礫層	S&G		小、中、大礫からなる角礫層					



A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 呈地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~20	6.5	40.0	25.2	26.7	8.1	SL		
2	20~37	13.5	28.9	50.0	19.1	2.0	SL		
3	37~55	17.1	14.4	48.3	24.4	12.9	L		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	氣 相					H ₂ O	KCl		
1				4.51	0.44	10.3	7.8	5.6	5.0	7.3	1668
2				5.43	0.51	10.6	9.4	5.7	5.2	31.8	2659
3				5.78	0.52	11.1	10.0	5.9	5.0	9.0	2943

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	14.9	244	38	15	58	5.3		
2	20.6	292	195	10	51	tr		
3	38.2	244	16	10	22	tr		

A-4 他の土壤統との関係

本統と同じ礫質褐色低地上に区分される統にトマム西統、下トマム統がある。トマム西統は礫層の出現位置が浅いこと、また下トマム統は同じく礫層が浅く円礫であることから本統と異なる。

A-5 母材：非固結水成岩(火山放出物を混える)

A-6 堆積様式：水積(扇状堆積)

A-7 地形：河岸段丘及びそれに続く扇状地

B-1 簡略分級式

上表耕 効土松 生産の層 力可能 等級	有表耕 土的土的 の層の 厚深含 量等級	表透保 土的土的 難の粘 易着土 性の堅 さ	地然肥 土的土的 の層の 風乾水 水潤沃 度	固固肥 置換性 の性度 度	上分上 層の性 度	分置換 の性度 度	固層的 性度	有微效 力強度 度	酸量 度	有微酸 力強度 度	害物質 害物質 度	害物質 害物質 度	增冠害 害物質 度	地滑り 害物質 度	災害 害物質 度	障害 害物質 度	災害 害物質 度	傾斜 傾向度 度	傾斜 傾向度 度	自然傾 傾向度 度	侵蝕 侵蝕 度	侵蝕 侵蝕 度	侵耐耐 水風 侵蝕 侵蝕 度	
t d g p	w	f	n	i	a	s	e																	
畑	III H H I I 1 1 2 I 1 2 2 II 2 3 1 III 1 1 1 2 1 3 I 2 1 II 2 1 I 1																					I 2 2 1		
畑	III n H t d g f a																							

B-2 利用状況：畑、牧草地

B-3 農業上の留意事項

表層は樽前a火山灰の影響で土性が粗く耕耘は容易である。第2層以下はリン酸固定力が極めて強いので深耕の場合には特にリン酸資材の施用を怠らないこと。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村清

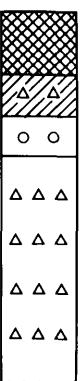
15. 下トマム統

A-1 土壤統の特徴

本統は頁岩、砂岩を主材とするごく新しい扇状地上の礫質褐色低地土である。表層は20~30cmでその下は半角礫層となる。礫間に埴壤土があるため根の伸長は深い。表層には樽前b火山灰の混入していると思われる。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.46 牧草地）

ST 46	土 色	土 性	構 造	ち 密 度	粘 着 性	斑 紋	湿 り	透 水 性	備 考
	黄褐 10YR3/2	LiC	小 粒	20	小	な し	2	大	礫質褐色低地上 12C07
	黄褐 10YR3/2	CL	小 粒	16	小	な し	2	大	表層に小中角礫 トム
	黄褐 10YR5/4	CL	小 塊	20	小	な し	2	大	
		S&G	小、中、大の半角礫層						砂岩、頁岩

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 上 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~17	5.8	30.5	16.5	24.7	28.3	LiC		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸 度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H ₂ O	KCl		
1				6.21	0.50	12.4	10.7	6.4	6.0	0.8	1657

層位	塩基交換容 量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離 酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	27.2	580	32	18	76	4.2		

A - 4 他の土壤統との関係

本統と同様に礫層が浅く出現する褐色低地土にトマム西統がある。とまむ西統は河川の最新沖積面に分布することで本統とは異なる。

A - 5 母材：半固結水成岩

A - 6 堆積様式：水積(扇状堆積)

A - 7 地形：標高280～500m、傾斜3～8°の扇状緩斜面、河岸段丘

B - 1 簡略分級式

上表有表耕土自養障災傾侵	自傾入侵耐耐
土壤生産の層礫の土の肥の性の置換の有効態量の微酸害物的害物增地滑り冠水の自然の水風	地為のの危険度の危險度の傾斜的侵蝕
力厚深含難の粘風乾水水潤沃肥定塩基石炭苦カリ酸要性有無性度度	然の傾斜度
可能ささ量易着土着土性の性度力力態含量素度	斜向斜度
t d g p w f n i a s e	

畑 III III III II I 1 1 1(H)1 2(2)II 1 3 3 II 1 1 1 2 1 2 III 1 3 I 1 1 II 2 II 2 2 1

畑 III t d i II g(w)f n s e

B - 2 利用状況：牧草地、畑

B - 3 農業上の留意事項

表土の厚さが薄く、礫を含むので除礫が必要となることが多い。古い牧草地の場合表層の塩基バランスが石灰に片寄るので、塩基バランスを考慮した施肥及び改良資材の施用を行うこと。

C 調査年月日：昭和48年9月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月 北海道立上川農業試験場 木村 清

16. 上トマム統

A-1 土壤統の特徴

本統は、表層50cm以内が樽前火山灰層 (Ta-a,b,c,d?) がありその下に扇状堆土がある土壤統である。本統は南富良野町と占冠村境、トマム付近の標高520~570mの平坦な段丘山に分布する。下層部は強い湿性を示す。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.29) 畑野政次郎宅地先

KA 29	土 色	土 性	構 造	ち密 度	粘 着 性	斑 紋	湿 り	透 水 性	備 考
14	黄褐 10YR2/3	SCL	小 粒	20	小	な し	大	大	中粗粒灰色低地 土 13E17
37	灰色 2.5Y4/2	SL	小 塊	18	中	な し	中	中	
58	灰色 7.5Y6/2	SiCL	小 塊	17	中	雲 含 む	中 ~ 湿	中	
70	灰色 7.5Y5/2	LiC	無構造	15	中	管状含む	湿	中 ~ 小	湧水位70cm
75	青灰 10Y6/1	SL	無構造	16	小	管状含む	潤	大	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~14	5.8	31.2	32.8	18.8	17.1	SCL		
2	14~37	9.2	19.2	45.9	24.4	10.4	SL		
3	37~58	8.6	2.9	36.6	45.4	15.2	SiCL		
4	58~75	4.2	10.2	20.3	34.2	35.3	LiC		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	氣 相					H ₂ O	KCl		
1				5.77	0.39	14.7	10.0	5.9	5.5	3.3	1912
2				4.82	0.33	14.6	8.4	6.0	5.6	2.4	2378
3				2.93	0.21	14.1	5.0	5.8	5.5	4.9	2429
4				—	—	—	—	5.8	5.3	9.1	1002

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)	有効態リン酸(mg/100g) ブレイ2 トルオグ法	遊離 酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	24.2	173	93	8	20	4.2		
2	25.7	53	173	6	7	1.1		
3	17.1	73	18	19	15	1.1		
4	16.3	146	35	19	32			

A-4 他の土壤統との関係

本統に隣接してトマム南統がある。本統の分布する地形より傾斜が急なため表層の火山灰起源の土層は薄い。また本統より乾性であり、水分状態が異なる。

A-5 母材：非固結火成岩(樽前a、c、d)／非固結水成岩

A-6 堆積様式：風積／水積

A-7 地形：標高520～570mの平坦な低位段丘

B-1 簡略分級式

上表有表耕 壤土の層の厚 生産力の可 能性等級	下表耕土の の層の深さ の含水量	自然表地の の肥度 の難易度	養分保 持の度 の土着性 の性質	障害物 置の度 の肥沃度 の粘度	災害的 害の度 の程度	傾斜度 度の度 度の度	侵蝕度 度の度 度の度
t d g p	w	f	n	i	a	s	e
畑	H H I I I 2 2 1 H 1 1 2 H 1 3 2 H 2 2 2 2 1 2 I 1 1 I 1 1 I 1						I I I I
畑	H t w f n						

B-2 利用状況：牧草地

B-3 農業上の留意事項

塩基及び有効態リン酸に欠ける。また、下層が湿性であるため草地以外の利用では、暗渠排水が不可欠である。土壤改良材の施用、有機物施用を行うこと。

C 調査年月日：昭和48年9月
D 取りまとめ：平成7年3月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥
北海道立上川農業試験場 木村清

17. トマム北統

A-1 土壤統の特徴

本統は占冠村北東端の上トマムに分布する泥炭土である。大部分が沖積段丘上に分布している。湿润で排水不良のところが多い。表層は泥炭の分解層であり、無機質分に欠ける。樽前火山灰 (ta-a, b) を狭在する。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.30)

KI 30	土 色	土 性	構 造	ち密 度	粘 着 性	斑 紋	湿 り	透 水 性	備 考
10 18 43	黒色 10YR2/1	LiC	粒 質	12	中	—	湿	中	泥炭土 1601
43	黄褐 10YR5/3	S	单 粒	7	なし	—	湿	大	Ta-a火山灰
43	灰色 7.5Y2/2	泥炭	マット		なし	—	潤	大	泥炭の分解程度 やや不良
43	黄褐 7.5Y2/3	泥炭	マット	6		—	潤	大	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml 風乾土 現地
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1	0~10	9.8	26.3	24.7	5.2	43.9	SiC		
2	10~18	3.5	42.0	29.3	13.5	15.2	SCL		
3	18~43	—	—	—	—	—	—Lp		
4	43~	—	—	—	—	—	—Lp		

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H ₂ O	KCl		
1				13.8	1.02	13.5	21.5	6.3	6.1	1.1	1830
2				4.0	0.21	19.5	6.9	6.3	5.6	2.1	1100
3				25.9	1.57	16.5	44.9	5.7	5.2	4.8	2000
4				—	—	—	—	—	—	—	—

層位	塩基交換容量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)			飽和度(%)	有効態リン酸(mg/100 g) ブレイ2 トルオグ法	遊離酸化鉄(%)	有効態珪酸(mg/100 g)
		CaO	MgO	K ₂ O				
1	66.5	132	143	100	71	53.2		
2	17.3	116	50	18	24	3.1		
3	60.0							
4								

A - 4 他の土壤統との関係

占冠村に設定した唯一の泥炭土である。

A - 5 母材：低位泥炭

A - 6 堆積様式：集積

A - 7 地形：低位段丘

B - 1 簡略分級式

土壤生产力可能等級	表土の厚さ	表土の深さ	耕性	土壌の難易性	土壌の粘性	土の風乾性	土の乾燥性	透水性	保水性	然地性	肥沃性	肥料定め	土の肥力	土の力	土の堅さ	自生性	養分置換性	土層の性状	豊富な塩基	有効態石灰量	有効態カリウム量	有効態リン酸量	有害物質の有無	物理的害性	化学的害性	病害の有無	障害度	災害度	傾斜度	侵蝕度	侵蝕度	侵蝕度
t d g p	w	f	n	i	a	s	e																									
畑	III	III	I	I	1	1	1	III	2	1	3	III	3	3	3	II	3	1	1	1	2	2	I	1	1	I	1	1	I	I	I	I
畑	III	t	d	w	f	II	n	a																								

B - 2 利用状況：未耕地

B - 3 農業上の留意事項

農地として利用では、排水対策が先行する。明渠の配置、切断排水を行って排水を促進した後、暗渠を施工する。

酸性矯正、リン酸資材の施用を行う。また、防風林が必要である。

C 調査年月日：昭和48年9月

調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽弥

D 取りまとめ：平成7年3月

北海道立上川農業試験場 木村 清

III. 土壤の理化学性(代表地点、参考地点)

地点番号 — 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒径組成				土性 国際法	pH		置換 酸度Y ₁	有機物		
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		H ₂ O	KCl		全炭素	全窒素	C/N比
4-1	0~16	10.0	37.5	20.3	31.8	10.4	L	5.0	4.3	5.9	5.78	0.55	10.5
	16~36	7.6	26.1	44.2	25.7	4.0	SL	5.3	4.8	1.3	4.45	0.42	10.5
	36~58	8.0	12.9	45.5	31.5	10.1	L	5.3	4.7	1.9	4.65	0.39	11.9
	58~60		12.4	48.2	35.1	4.3	L	5.3	4.7	2.0			
7-1	0~20	7.9	29.0	31.2	25.9	13.9	L	5.1	4.4	5.9	4.58	0.42	10.9
	20~42	3.4	27.7	38.0	23.0	11.3	SL	5.3	4.6	3.6	1.94	0.20	9.7
	42~73		21.7	35.1	27.2	16.0	CL	5.2	4.3	8.6			
10-1	0~12	2.0	11.0	45.6	17.8	25.6	SC	5.7	4.3	4.1	1.13	0.12	9.1
	12~20	1.5	11.0	44.6	26.3	18.1	CL	5.9	4.8	1.5	0.92	0.10	8.9
12-1	0~15	10.3	34.7	27.1	28.9	9.3	L	5.6	4.9	1.0	5.97	0.53	11.3
	15~30	11.0	13.1	49.2	28.5	9.2	L	5.4	4.7	2.1	6.36	0.54	11.9
	30~42	12.5	11.0	42.2	40.7	6.1	L	5.3	4.6	2.8	7.17	0.58	12.3
	42~	5.0	8.9	52.1	29.5	9.5	L	5.3	4.7	1.9	2.86	0.24	12.0
13-1	0~12	2.6	13.4	42.8	25.7	18.0	CL	5.5	4.4	2.9	1.46	0.14	10.1
	12~22	1.9	18.8	43.8	21.9	15.5	CL	6.1	5.0	4.0	1.08	0.10	10.5
	22~45		6.0	45.1	35.3	13.5	L	6.0	5.1	0.9			
14-1	0~17	7.7	41.4	21.6	20.0	17.0	CL	5.7	4.9	0.8	4.44	0.43	10.4
	17~28	6.3	31.5	28.5	25.0	15.0	L	5.9	5.0	0.5	3.67	0.33	11.3
17-1	0~20	2.8	17.6	37.7	27.9	16.8	CL	5.6	4.6	1.1	1.63	0.15	10.5
	20~48	1.9	4.4	51.3	32.5	11.8	L	5.6	4.5	1.4	1.09	0.11	9.5
	48~85		10.6	41.1	32.3	16.0	CL	5.9	5.0	0.6			
20-1	0~20	7.8	40.0	25.2	26.7	8.1	SL	5.6	5.0	7.3	4.51	0.44	10.3
	20~37	9.4	28.9	50.0	19.1	2.0	SL	5.7	5.2	31.8	5.43	0.51	10.7
	37~55	10.0	14.4	48.3	24.4	12.9	L	5.9	5.0	9.0	5.78	0.52	11.1
24-1	0~15	6.2	30.3	24.4	23.0	22.2	CL	5.7	4.5	9.5	3.57	0.35	10.3
	15~35	3.8	19.7	27.3	26.9	26.1	LiC	6.1	4.6	1.6	2.18	0.22	9.9
27-1	0~15	8.9	32.6	30.8	20.4	16.2	CL	6.2	5.2	1.1	5.18	0.35	14.9
	15~30	7.8	28.1	37.7	26.5	7.6	SL	5.8	4.7	1.6	4.47	0.32	14.1
	30~58		26.3	46.9	26.4	0.3	SL	6.0	4.9	1.0			
	58~70		30.5	33.2	26.2	10.1	L	6.0	4.6	2.1			
29-1	0~14	10.0	31.2	32.8	18.8	17.1	SCL	5.9	5.5	3.3	5.77	0.39	14.7
	14~37	8.4	19.2	45.9	24.4	10.4	SL	6.0	5.6	2.4	4.82	0.33	14.6
	37~58	5.0	2.9	36.6	45.4	15.2	SiCL	5.8	5.5	4.9	2.93	0.21	14.1
	58~75		10.2	20.3	34.2	35.3	LiC	5.8	5.3	9.1			
30-1	0~10	23.8	26.3	24.7	5.2	43.9	LiC	6.3	6.1	1.1	13.80	1.02	13.5
	10~18	6.9	42.0	29.3	13.5	15.2	SCL	6.3	5.6	2.1	4.04	0.21	19.5
	18~43	44.9						5.7	5.2	4.8	25.96	1.57	16.5

塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 100g中			飽和度 (%)	燃酸吸収数	アンモニア態N mg/100g 乾土・湿土	有効態りん酸 P ₂ O ₅ mg/100g		有効態珪酸 mg/100g	遊離酸化鉄 (%)	備考
	CaO (mg)	MgO (mg)	K ₂ O (mg)				ブレイ2	トルオーラ			
23.7	62.8	175.8	9.0	10	1,861			5.6			
20.9	75.6	66.2	12.9	15	2,423			tr			
29.4	57.8	548.7	20.6	7	2,730			tr			
24.9	55.6	tr	16.5	8	2,471			..			
18.7	100.2	133.2	14.2	19	1,494			6.3			
15.1	47.0	95.8	12.1	11	1,575			6.3			
14.0	128.4	tr	6.3	33	1,105			5.2			
16.1	181.1	146.2	11.9	87	702	4.19	10.8			0.65	
16.6	197.4	191.9	9.0	101	845	2.74	6.2			0.77	
32.5	365.1	42.2	5.4	40	2,276			4.4			
42.7	125.0	24.7	8.9	10	2,656			5.6			
50.2	278.9	210.2	12.3	20	2,738			4.5			
7.2	30.3	174.0	10.6	15	2,337			..			
15.5	265.0	114.4	27.3	102	742	8.08	19.1			0.67	
16.0	339.7	105.4	13.9	110	843	2.73	11.3			0.70	
8.6	185.1	166.1	5.17	175	847			..		0.72	
23.2	371.6	56.7	16.2	57	1,421			7.3			
22.2	391.8	32.6	23.7	63	1,599			tr			
16.6	294.2	55.9	22.7	63	824			8.2			
19.0	354.2	33.4	16.6	67	850			4.1			
18.4	442.5	56.1	9.1	86	1,033			3.1			
14.9	242.4	38.7	14.4	58.3	1,668			5.3			
20.6	291.3	195.1	9.8	51	2,659			tr			
38.8	243.1	17.0	9.6	22	2,943			tr			
13.5	250.6	51.6	14.2	88	1,432	7.37	20.0			0.57	
18.0	275.8	59.0	22.5	74	1,362	2.35	4.7			0.69	
18.9	274.2	17.5	8.7	52	2,132			3.3			
19.5	49.0	115.5	4.4	9	2,208			tr			
17.8	35.8	47.1	2.13	7	2,024			tr			
13.9	35.1	201.5	3.13	9	1,608			..			
24.2	136.8	91.8	7.4	20	1,912			4.2			
25.7	52.4	172.6	5.5	7	2,378			11.1			
17.1	73.5	17.6	20.8	15	2,429			1.1			
16.3	146.2	352.6	19.8	32	1,002			..			
66.5	1316.6	142.6	99.8	71	1,830			53.2			
17.3	116.0	49.9	17.6	24	1,098			3.1			
60.0	168.0	554.8	46.0	10	2,000			2.0			

地点番号	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	pH		置換 酸度Y ₁	有 機 物		
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		H ₂ O	KCl		全炭素	全窒素	C/N比
31-3	30~50		18.4	47.6	31.3	2.7	SL	5.8	5.7	1.1			
33-1	0~18	8.6	25.0	30.1	27.6	17.4	CL	5.0	4.5	4.4	4.94	0.36	13.7
	18~38	6.4	12.4	45.6	23.8	18.2	CL	5.3	4.8	1.6	3.69	0.27	13.7
	38~60		11.2	52.0	33.5	3.3	L	5.6	4.6	2.6			
35-1	0~12	8.4	25.6	29.6	28.9	15.9	CL	5.5	4.9	1.1	4.81	0.37	13.0
	12~30	5.4	14.9	42.2	30.3	12.6	L	5.5	4.9	1.1	3.09	0.23	13.3
37-1	0~13	12.2	22.3	29.3	43.0	5.4	L	5.7	5.0	1.3	7.03	0.41	17.1
	13~23	12.6	22.2	31.2	31.2	15.4	CL	5.4	4.6	2.9	7.34	0.39	19.0
	23~60		15.2	46.9	23.1	14.8	L	5.2	4.6	2.9			
38-1	0~15	7.8	22.1	39.6	33.3	5.0	L	5.5	4.8	1.1	4.51	4.51	14.4
	15~30	3.0	15.3	46.5	32.2	6.0	L	5.3	4.7	2.3	1.74	1.74	12.8
	30~65		10.4	46.5	38.0	5.1	L	5.3	4.6	2.1			
39-1	0~20	11.8	24.1	22.8	48.0	5.2	SIL	5.3	4.7	2.9	6.86	6.86	14.4
	20~40	4.6	6.3	43.2	35.6	14.9	L	5.1	4.5	4.1	2.71	0.17	16.1
	40~50		1.4	40.0	53.7	4.8	SiL	5.2	4.5	5.9			
41-1	0~28	6.3	21.2	27.8	41.6	9.4	L	5.6	5.0	0.6	3.66	0.29	12.6
	28~48	4.8	15.2	34.2	33.5	17.0	CL	5.5	4.8	1.5	2.79	0.55	5.0
	48~75		18.8	35.8	35.5	10.0	L	5.4	4.8	1.4			
42-1	0~15	8.1	27.2	29.6	33.6	9.7	L	5.5	4.9	1.0	4.68	0.34	13.9
43-1	0~18	10.1	28.2	24.1	27.5	20.2	CL	5.4	4.7	2.0	5.80	0.42	13.8
	18~38	8.5	22.7	33.3	32.2	11.9	L	5.6	5.0	1.3	4.92	0.37	13.4
	38~55		16.4	51.2	30.1	2.3	SL	5.4	4.9	1.3			
44-1	0~15	3.7	1.3	35.1	34.0	29.6	LiC	5.3	4.5	2.5	2.11	0.17	12.1
	15~28	1.4	28.1	16.7	18.2	37.0	CiC?	6.2	5.7	1.3	0.81	0.07	11.4
46-1	0~17	10.7	30.5	16.5	24.7	28.3	LiC	6.4	6.0	0.8	6.21	0.50	12.4
47-1	0~14	9.4	25.6	27.0	19.9	27.4	LiC	6.5	6.1	0.9	5.43	0.40	13.6
	14~28	10.3	31.5	36.9	19.6	12.0	SL	6.4	6.0	0.8	5.97	0.42	14.3
	28~45	11.5	15.1	55.9	17.3	11.6	SL	6.2	6.0	0.8	6.65	0.42	15.7
51-1	0~17	9.1	52.2	19.6	22.1	6.0	SL	6.0	5.6	2.5	5.29	0.45	11.7
	17~32	9.2	55.6	19.7	13.7	11.0	SL	6.0	5.6	3.3	5.30	0.49	10.9
52-1	0~16	6.1	56.0	20.1	12.3	11.6	SL	5.9	5.4	2.6	3.55	0.31	11.4
	16~25	3.2	17.0	49.4	3.0	30.6	SC	5.9	5.4	11.3	1.86	0.21	9.1
	25~50		27.2	33.8	33.2	5.8	L	6.1	5.7	1.3			
56-1	0~12	5.7	35.6	34.0	16.8	13.7	SL	5.9	5.4	5.3	3.30	0.30	10.9
	12~20	6.9	32.7	21.1	18.9	27.2	LiC	5.9	5.5	3.0	3.96	0.36	11.1
	20~35		34.2	20.7	16.5	28.6	LiC	6.1	5.8	1.0			

塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 100g中			飽和度 (%)	燃吸係 数	アノニア態 mg/100g 乾土/湿土	有効態りん酸 P ₂ O ₅ mg/100g		有効態珪酸 mg/100g	遊離 酸化鉄 (%)	備考
	CaO (mg)	MgO (mg)	K ₂ O (mg)				ブレイ2	トルオーグ			
11.30	57.0	18.8	6.4	18	1,866			4.2			
8.4	54.4	13.1	4.3	23	2,484			tr			
16.5	59.1	4.2	5.3	13	1,837			tr			
20.0	234.5	32.4	24.0	42	1,866			3.2			
17.6	59.0	84.7	13.7	12	2,171			tr			
27.1	388.9	26.8	44.4	51	2,289			8.9			
37.1	131.2	30.6	48.0	13	2,834			tr			
18.0	48.4	6.5	10.8	10	2,570			5.4			
20.4	117.7	13.0	25.9	21	1,919			tr			
11.8	38.0	10.5	5.7	12	1,733			tr			
12.7	29.1	8.3	0.9	8	1,435			tr			
25.9	193.2	19.6	8.7	24	2,365			2.2			
17.0	32.5	8.4	5.3	7	1,690			tr			
10.3	23.2	8.3	12.1	8	1,654			tr			
13.2	246.3	12.5	17.3	66	1,159			11.4			
15.7	111.2	12.6	21.9	25	2,090			tr			
8.1	49.6	8.3	4.2	22	1,500			tr			
18.8	183.0	19.1	15.3	35	1,960			tr			
21.0	130.2	13.1	21.1	22	2,357			tr			
19.7	126.5	15.2	18.3	23	2,130			tr			
17.7	47.5	6.4	6.4	10	2,078			tr			
10.9	89.0	8.2	17.1	29	779			8.2			
6.8	45.6	8.1	11.7	24	936			2.0			
27.2	579.9	32.1	18.1	76	1,657			4.2			
22.2	313.3	15.2	8.6	51	2,023			tr			
54.0	291.1	29.5	3.4	19	2,689			tr			
55.3	159.5	7.3	2.4	10	2,909			tr			
21.0	170.4	8.4	11.5	29	1,280			3.1			
15.2	154.2	21.3	10.1	36	1,356			4.2			
23.1	285.7	95.0	72.9	115	625	8.60	80.7		0.74		
17.2	290.7	97.1	45.7	155	658	5.04	23.1		0.72		
20.7	394.5	133.2	51.8	173	787		6.2		0.89		
18.0	181.4	46.2	12.0	86	1,066	9.07	40.8		0.60		
19.1	196.2	40.0	9.9	85	1,339	8.79	16.7		0.64		
26.1	248.7	40.9	15.5	77	2,161		3.2		1.52		